

# 遠隔医療について (No.2)

## ○遠隔相談 ○遠隔画像診断 ○遠隔病理診断

効 果	課 題
自施設に専門医がいなくても専門の診断結果が得られる	遠隔画像診断等は設備投資が必要
へき地等に勤務する医師を支援・グループ診療支援	通信環境の整備が必要
非専門医を専門医が支援・間接的に専門医を受診出来る	手技の伝達・指導
研修医等を指導医が遠隔で指導	

- ・ 医師資源に余裕のあるところが余裕のないところを支援することが出来る（例：へき地医療 ← 大学病院等）

## ○遠隔診療（オンライン診療）

効 果	課 題
来院が難しい人にも医療を提供可能・移動時間・交通費の節約	診断のための情報が十分に得られない（触診・検査が出来ない等）
患者の移住地を問わない	診療処置や臨床検査、画像検査ができない
自宅でリラックスして診察を受けることができる	通信環境の整備が必要
感染リスクや病状が悪化するリスクを抑えられる	高齢者など機器の不慣れな人の受診
原則予約のため患者の待ち時間が少ない	初期費用・ネットアプリなど継続した手数料・費用

- ・ 医療を必要とする患者に対して、遠隔であっても医療に対するアクセシビリティを確保できる。
- ・ 遠方の医師が診療を行うことにより「かかりつけ医」や地域の医療圏への影響が課題。

適している例	適していない例
生活習慣病の継続治療	定期的な対面診療、検査が必要な疾患
病態が安定している高血圧症など	レントゲンや呼吸器機能検査が必要な疾患
新規の症状の中でも軽度の咳嗽や湿疹等	腹痛、胸痛、頭痛など新規の急性症状